

Saito Vision2023 自己評価結果

【評価目安】

5：設定した全ての目標値を達成した上で、**特筆すべき取組※1**かつ**目標を大幅に上回る指標※2**があった。

4：設定した全ての目標値を達成した上で、**特筆すべき取組**または**目標を大幅に上回る指標**があった。

3：設定した全ての目標値を達成した。

2：目標値を概ね達成※3した。

1：目標値をほぼ達成出来なかった

※1 実績を元に、該当するか否かについて学長・理事が判断。該当する場合は として記載。

※2 「Saito Vision 2023」の期間中に第4期中期目標期間全体での目標を達成（中期計画連動目標の場合、★がついたもの）、目標値の130%以上を達成した等。

※3 設定した数値目標の2／3以上を達成した。

【自己評価】

5：当初の想定以上に実現した	2
4：十分に実現した	10
3：実現した	3
2：十分には実現していない	0
1：全く実現していない	0
合計	15

分野	Action Plan2023		評価指標	中期計画 指標通番	目標値 (目標値×130%)	2023達成値	2024達成値	2年間計又は平均	評価目安	自己評価
	目的	取組計画								
教育	■高度デジタルエキスパート人材の育成	・全学的にデジタル技術やデータ解析など専門知識を教育するカリキュラムを充実させ、学部・大学院教育に活用 ・企業との連携により実務家教員を雇用し、実践的な授業やプロジェクトを提供することにより、地方トップクラス人材を育成	本学数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了率	—	各年度85%以上(100%)	83%	81%	—	2	3
			企業と連携した授業科目の数(大学院)	—	2024年度3件以上(4件以上)	—	4件	—	4	
	■学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育・学生支援の推進	・自発的に問題発見から分析、問題解決までを導く力を養成 ・学生の個性を伸ばす教育への変換 ・学生の意見を反映し講義の質を向上 ・ウェルビーイングの実現に繋がる教育を推進	アクティブ・ラーニング型授業の実施割合	10	各年度60%以上(78%以上)	81%	80%	—	4	4
			多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数	13	2024年度67件以上(87件以上)	—	82件	—	3	
	■グローバル人材の育成	・英語教育を充実させるため、能力別のクラス分けを継続し、定期的な英語外部試験等の取組を実施 ・英語で学修できる授業プログラムを拡充し、海外の大学と本学の学生の交換留学を推進 ・日本人学生と留学生の交流を促進 ・グローバル化する社会を持続的に発展させていく創り手を育成	短期海外派遣プログラムの1年次学生の参加者数	14	2年間計80人以上(104人以上)	66人	66人	132人	4	4
			1年次学生の英語外部試験の平均得点上昇率(4月受験時から1月受験時の平均得点の上昇率)	15	年平均5.0%以上UP(6.5%以上UP)	12.20%	10.70%	11.45%	4	
研究	■大学院教育の充実	・文理融合教育、学部横断型教育を推進 ・基礎研究から社会実装を見据えた研究への進展 ・理系のみならず文系の修士入学者を増加 ・博士課程のキャリアパス整備を促進	研究科及び学環における文系内又は理系内の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合	17	2年間平均24.0%以上(31.2%以上)	29.70%	30.40%	30.05%	3	4
			科学技術イノベーション創出に向けたフェロシップ創出事業採用学生一人当たりの論文投稿数及び国際学会発表数	20	各年度1件以上(1.3件以上)	2.3件	2.4件	—	5	
	■社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進	・強みである重点研究分野(カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス・文化財保存等)の研究や技術開発を全学体制で行うことにより、研究成果の社会実装を促進 ・重点研究分野における共同研究・受託研究件数、競争的資金獲得件数、論文掲載数、論文被引用数についてそれぞれ目標値を設定した上での増加達成	重点研究分野(カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス等)共同研究・受託研究の件数	31	2年間計205件以上(267件以上)	161件	187件	348件	4	5
			重点研究分野(同上)・技術において、研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して申請する、大型の競争的資金の申請数	32	2年間計3件以上(4件以上)	10件	2件	12件	5	
			重点研究分野(同上)・技術の論文掲載数	33	2024年度236件以上(307件以上)	—	289件	—	5★	
			重点研究分野(同上)・技術の論文被引用件数	34	2年間計2,889件以上(3,756件以上)	1,732件	6,408件	8,140件	5	
	■社会実装を目指した東西医学融合研究の推進	・学部、附属病院の融合による創薬に繋がる新たな疾病予防・治療戦略(次世代型医療科学)を創出 ・国内の関係大学と連携し、ASEAN諸国を含んだ国際協力拠点を増加	創薬シーズの数	38	各年度4件以上(5件以上)	15件	35件	—	4	4
			産官学連携による共同研究の件数	39	各年度4件以上(5件以上)	19件	19件	—	4	
	■世界トップレベルの研究拠点を形成	・脳神経科学、未病、カーボンニュートラル、軽金属、和漢医薬学、実験・理論物理学、数理情報工学等の世界トップレベル研究を発展させ、その成果を世界へ発信 ・国際的に活躍する若手研究者を育成	重点研究分野(同上)・技術の論文掲載数【再掲】	33	2024年度236件以上(307件以上)	—	289件	—	5★	5
			重点研究分野(同上)・技術の論文被引用件数【再掲】	34	2年間計2,889件以上(3,756件以上)	1,732件	6,408件	8,140件	5	
			若手教員の論文掲載数	—	2年間計540件以上(702件以上)	381件	354件	735件	5	

Saito Vision2023 自己評価結果

分野	Action Plan2023		評価指標	中期計画 指標通番	目標値 (目標値×130%)	2023達成値	2024達成値	2年間計又は平均	評価目安	自己評価
	目的	取組計画								
社会 貢献	■産学官金連携による 地域活性化を推進	・先進アルミニウム国際研究センターを中心に様々な 学問分野で地域の企業や自治体等との連携を強化し、 地域経済の発展や地域課題の解決に貢献 ・産学官金連携を加速させ富山県の経済発展に寄与 ・大学発ベンチャーを促進 ・アントレプレナーシップを推進	組織的連携協定の締結件数	5	2年間計2件以上 (3件以上)	3件	6件	9件	4	4
			県内企業との共同研究・学術指導の件数	—	2024年度56件以上 (73件以上)	—	69件	—	3	
	■地域への情報発信と 定期的な対話	・地域の企業、行政との連携を深め、その成果を発信 ・県民との対話の機会をつくり相互理解を深化	地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数	1	2024年度421件以上 (547件以上)	—	455件	—	4★	4
			地域の文化資源の調査・研究・保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数	2	2年間計15件以上 (20件以上)	8件	8件	16件	4	
	■リカレント教育等の 質向上	・修士課程において、社会人が就学しやすい学修方法 や履修制度を整え、入学者を増加 ・社会人向け講座において、地域特有の課題やニーズ に対応できるよう課題解決力や新たな価値を提案できる 共創力を身に付けられる実践型リカレント教育を実施	データサイエンス講座及びセミナーの受講生に対するアンケート 調査の結果	26	各年度3.5以上 (4.6以上)	4.2	4.2	—	3	3
			本学修士課程の社会人入学者の人数	27	2年間計52人以上 (68人以上)	31人	33人	64人	3	
	■地域住民の健康を守る ための医療連携と高度 医療の強化	・地域の医療機関との連携を強化し、高度先進医療と 質の高い医療を提供することで、地域医療に貢献 ・地域医療を守るため、医師等の医療従事者の派遣を実施	高度医療である一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合が 定める高難度手術（D・E）や高難度新規医療技術を用いた医療 の実績等	54	2年間計12,600件以上 (16,380件以上)	6,848件	7,053件	13,901件	3	4
			地域の医療機関への医師派遣数	52	2年間計32人以上 (42人以上)	20人	27人	47人	4	
	■学長ガバナンスの強 靱化に向けた体制整備	・学長ガバナンスの強靱化を図るため、外部有識者登 用を進め、大学の経営改善を推進 ・教職員の法人経営能力を向上するための研修体制を 整備 ・執行部の考えを教職員に伝え議論する場を提供 ・全学部が参加でき、大学運営について意見交換を行 うFDを実施	外部有識者の学長補佐等への登用人数	64	2年間計12人以上 (16人以上)	8人	9人	17人	4	4
			FDの開催数	—	2年間計3回以上 (4回以上)	2回	1回	3回	3	
大学 運営	■エビデンスベースの 法人経営	・大学IR組織が、教育・研究・社会貢献等の各領域と 連携して客観的なデータ分析を実施し、その結果を教 育の充実、研究の推進、社会貢献の促進に活用	自己点検・評価に資する分析の実施	—	2年間計4件以上 (5件以上)	3件	1件	4件	3	3
	■財源の多元化・安定 的な財務基盤の確立	・積極的な外部資金獲得と資産活用、効率的な資金運 用により収入額を増加 ・学部横断的に研究に取り組み大型研究資金を獲得 ・産学連携を図り、企業との共同研究を推進	外部資金収入及び自己収入額（学生納付金・附属病院を除く）	73	2024年度22.25億円以上 (28.93億円以上)	—	29.48億円	—	4	4
			病院関連事業に資する補助金・助成金等の外部資金の獲得件数	78	2年間計34件以上 (44件以上)	25件	28件	53件	4	
	■カーボンニュートラル の実現に向けた取組 を推進	・大学での消費電力削減 ・学生を巻き込んだカーボンニュートラルを実践 ・基礎研究を基に社会実装に繋げるセンターを設置	カーボンニュートラルの実現に向けた取組の件数	—	2年間計10件以上 (13件以上)	8件	9件	17件	4	4
			カーボンニュートラルの取組を推進する新たなセンターを設置 する。	—	2024年度迄に1件 (—)	1件	—	—	3	

Saito Vision 2023「Action Plan」実施状況の自己評価シート

5：当初の想定以上に実現した、4：十分に実現した、3：実現した、2：十分には実現していない、1：全く実現していない

分野	Action Plan		実施状況	実績																			
教育	■高度デジタルエキスパート人材の育成	・全学的にデジタル技術やデータ解析など専門知識を教育するカリキュラムを充実させ、学部・大学院教育に活用 ・企業との連携により実務家教員を雇用し、実践的な授業やプロジェクトを提供することにより、地方トップクラス人材を育成	3	【実績及び評価指標】 ○ <u>本学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了率について</u> ・教育プログラムの設計として、1)学生が履修しにくい科目構成であったこと、2)応用基礎レベルとリテラシーレベルの区別があいまいで、特にリテラシーレベルの要求レベルが高かったのではないかという反省がある。 このため、2026 教養改革をベースに、2025 年度中に新プログラムを設計し、2026 年度から実施予定である。 ○ <u>企業と連携した授業科目の数（大学院）について</u> ・企業と連携した授業科目について、理工学研究科 博士前期課程の「ミリ波センシング技術」、「モビリティ業界におけるシステム開発概論」、「AI と画像解析技術の応用」及び「情報通信特論」の 4 科目であり、いずれも本学教員と企業所属の実務家教員による実習を含んだ実践的な授業である。																			
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th></tr><tr><td>本学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了率</td><td>%</td><td>各年度 85%以上</td><td>83%</td><td>81%</td></tr><tr><td>企業と連携した授業科目の数（大学院）</td><td>件</td><td>2024 年度 3 件以上</td><td>—</td><td>4</td></tr></table>					評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	本学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了率	%	各年度 85%以上	83%	81%	企業と連携した授業科目の数（大学院）	件	2024 年度 3 件以上	—	4
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値															
本学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了率	%	各年度 85%以上	83%	81%																			
企業と連携した授業科目の数（大学院）	件	2024 年度 3 件以上	—	4																			
【特筆すべき事項】 記載事項無し																							

分野	Action Plan		実施状況	実績																			
教育	■学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育・学生支援の推進	・ 自発的に問題発見から分析、問題解決までを導く力を養成 ・ 学生の個性を伸ばす教育への変換 ・ 学生の意見を反映し講義の質を向上 ・ ウェルビーイングの実現に繋がる教育を推進	4	【実績及び評価指標】 ○アクティブ・ラーニング型授業の実施割合について ・ シラバス作成マニュアルに、アクティブ・ラーニングの導入及び推進が求められている旨を記載し、学内に周知を図った。 ・ 現状の実施割合を教育推進センター会議で報告するとともに、今後も継続して取り組むことを呼びかけた。 ・ アクティブ・ラーニングの効果的な実施のため 2023 年 11 月には「大人数・講義中心型授業におけるアクティブ・ラーニング」、2024 年 12 月には「学びを深める授業デザイン」の FD を行った。 ○多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数について ・ 授業評価アンケート結果を分析し、改善が必要な課題の有無等を確認した。 ・ 複数の教員で役割分担し、協力しながら授業を行う「チームティーチング」の推進に向けて、他大学からの講師を招き、2023 年度に 1 回、2024 年度に 3 回の FD を開催した。 (2023 年度) 1. 「複数教員で担当する授業科目における講義方法及び評価方法等」 (2024 年度) 1. 「弘前大学の全学必修導入科目『地域学ゼミナール』について」 2. 「宇都宮大学の新教養科目構成とルーブリックについて」 3. 「東北大学の全学必修科目『学問論』について」 ・ 教養教育改革に向けて取り組んでいる新科目づくりについて、ディプロマポリシーに基づいて科目のねらいを取りまとめ、導入学修の授業計画の企画・立案をするなど組織的に「チームティーチング」を構築するための基盤整備を行った。																			
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th></tr><tr><td>アクティブ・ラーニング型授業の実施割合</td><td>%</td><td>各年度 60%以上</td><td>81</td><td>80</td></tr><tr><td>多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数</td><td>件</td><td>2024 年度 67 件以上</td><td>—</td><td>82</td></tr></table>					評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	アクティブ・ラーニング型授業の実施割合	%	各年度 60%以上	81	80	多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数	件	2024 年度 67 件以上	—	82
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値															
アクティブ・ラーニング型授業の実施割合	%	各年度 60%以上	81	80																			
多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数	件	2024 年度 67 件以上	—	82																			
【特筆すべき事項】 記載事項無し																							

分野	Action Plan	実施状況	実績
教育	■グローバル人材の育成 ・英語教育を充実させるため、能力別のクラス分けを継続し、定期的な英語外部試験等の取組を実施 ・英語で学修できる授業プログラムを拡充し、海外の大学と本学の学生の交換留学を推進 ・日本人学生と留学生の交流を促進 ・グローバル化する社会を持続的に発展させていく創り手を育成	4	【実績及び評価指標】 ○短期海外派遣プログラムの1年次学生の参加者数について ・1年次生対象の春季短期海外派遣プログラム（ニュージーランド、マレーシア、台湾）と全学年対象の夏季短期海外派遣プログラム（アメリカ、マレーシア）を実施した。 ・各プログラムにおいて、事前説明会を各2回開催した。また、終了後は次年度留学を希望する1年次学生向けに帰国報告会を実施した。 ・学生の費用負担軽減を図るため、1年次学生対象のプログラムは富山大学基金から、全学年対象のプログラムには日本学生支援機構から奨学金が対象学生に給付された。 ・海外派遣のための英語力強化の取り組みとして、TOEICテスト等のスコア又は英語科目の成績を参考に参加者の選考を行い、フィリピンのアテネオデマニラ大学に協力を依頼してオンライン英語研修も実施し、プログラムを終了した学生を対象に富山大学基金から授業料の一部を給付した。 ○1年次学生の英語外部試験の平均得点上昇率について （能力別、テーマ別クラスの導入について） ・教養教育では、2022年度から全学必修の「基盤英語Ⅰ・Ⅱ」及び「ESP（English for Specific Purposes）Ⅰ」について習熟度別のクラス編成を導入している。 ・「基盤英語Ⅰ・Ⅱ」はTOEIC対策を主眼としており、全クラスでTOEICに関連した教科書使用を義務付けている。また、当該科目に係る成績評価の一部として、ALC NetAcademyNEXTへの取組みやTOEICスコアを活用し、TOEICの得点アップにつなげることを目指している。 ・「ESPⅡ」では学生の興味に応じて学べるテーマ別クラスを導入し、自主的な英語学習の促進を目指している。 （取組内容、外部試験結果の検証） （2023年度） ・授業評価アンケートとは別に独自に実施したESPⅡの学生アンケートの分析を行い、その結果をまとめ対応策を検討した。対応方法としては、 1. 該当教員とのコミュニケーションの促進によって学生の声を届ける 2. 各教員へのシラバス作成依頼時にシラバス執筆の方法について再周知する 3. ESPⅡ担当教員の希望者に学生のTOEICスコアを送付し、レベル把握に役立ててもらう などを検討し、可能なものから実施した。 ・外部試験結果について、4月実施の平均得点は427点、第2回目の12月実施の平均得点が479点で、2回目の平均得点が1回目より52点上昇し、得点上昇率が全体で12.2%に達した。 （2024年度） ・ESPⅡ履修登録に向けて、学生が行うクラス選択に関して、さらに改善を行った。 1. クラス希望調査の周知文面を明確で簡潔な内容に修正した。 2. クラス希望調査を実施するMoodle上の表記にも工夫を加えた。特に、学内協力教員がどのような専門を持つかを簡潔に記載し、クラス選択の適正化をはかった。

分野	Action Plan		実施状況	実績																							
				3. 学生の希望とクラス人数について見直した。 4. 学内協力教員の方々の中で希望する教員と、ESPⅡの授業実態や学生の受講状況など意見交換を行い、R7年度の授業において、学生のレベルや所属学部、教員の意向を踏まえて、どの時間割枠に担当授業を配置したらよいかを検討した。																							
				・外部試験結果について、4月実施の平均得点は428点、第2回目の12月実施の平均得点が474点で、2回目の平均得点が1回目より46点上昇し、得点上昇率が全体で10.7%に達した。																							
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>合計値 平均値</th></tr><tr><td>短期海外派遣プログラムの1年次学生の参加者数</td><td>人</td><td>2年間計 80人以上</td><td>66</td><td>66</td><td>132</td></tr><tr><td>1年次学生の英語外部試験の平均得点上昇率（4月受験時から1月受験時の平均得点の上昇率）</td><td>%</td><td>年度平均 5.0%以上UP</td><td>12.2</td><td>10.7</td><td>11.45</td></tr></table>						評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	合計値 平均値	短期海外派遣プログラムの1年次学生の参加者数	人	2年間計 80人以上	66	66	132	1年次学生の英語外部試験の平均得点上昇率（4月受験時から1月受験時の平均得点の上昇率）	%	年度平均 5.0%以上UP	12.2	10.7	11.45
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	合計値 平均値																		
				短期海外派遣プログラムの1年次学生の参加者数	人	2年間計 80人以上	66	66	132																		
1年次学生の英語外部試験の平均得点上昇率（4月受験時から1月受験時の平均得点の上昇率）	%	年度平均 5.0%以上UP	12.2	10.7	11.45																						
【特筆すべき事項】 記載事項無し																											

分野	Action Plan		実施状況	実績																							
教育	■大学院教育の充実	・文理融合教育、学部横断型教育を推進 ・基礎研究から社会実装を見据えた研究への進展 ・理系のみならず文系の修士入学者を増加 ・博士課程のキャリアパス整備を促進	4	【実績及び評価指標】 ○研究科及び学環における文系内又は理系内の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合について ・上半期（10月実施）に在学院生の主・副指導教員の情報を調査し、下半期（翌年度4月実施）に10月入学者の主・副指導教員の情報の調査と、当該学生の情報の修正を行うことで、状況を把握した。 ・異分野複数教員による研究指導促進を大学院教務専門会議において行っている。 ・異分野複数教員による具体的な研究指導内容については、各教員による Microsoft Forms への入力により確認した。（年度内に2回依頼を行った） ○科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業採用学生一人当たりの論文投稿数及び国際学会発表数について ・英語論文セミナーを開催し（2023年度は11/24、2024年度は1/16）、論文投稿及び国際学会発表に必要な技術を習得した。 ・伝わるプレゼン・ポスター講習会を開催（2023年度は9/6、2024年度は9/4）し、分かりやすいポスターの作成講座を開催した。 ・2024年度については、採用学生が、GALA（11/6）やフォーラム富山「創薬」（10/25）などで研究発表を行った。																							
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>2年間 平均</th></tr><tr><td>研究科及び学環における文系内又は理系内の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合</td><td>%</td><td>2年間平均 24.0%以上</td><td>29.7</td><td>30.4</td><td>30.05</td></tr><tr><td>科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業採用学生一人当たりの論文投稿数及び国際学会発表数</td><td>件</td><td>各年度 1件以上</td><td>2.3</td><td>2.4</td><td>—</td></tr></table>						評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間 平均	研究科及び学環における文系内又は理系内の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合	%	2年間平均 24.0%以上	29.7	30.4	30.05	科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業採用学生一人当たりの論文投稿数及び国際学会発表数	件	各年度 1件以上	2.3	2.4	—
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間 平均																		
				研究科及び学環における文系内又は理系内の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合	%	2年間平均 24.0%以上	29.7	30.4	30.05																		
科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業採用学生一人当たりの論文投稿数及び国際学会発表数	件	各年度 1件以上	2.3	2.4	—																						
【特筆すべき事項】 ・英語論文校正費や投稿料、国際学会参加費や旅費の補助を行うことで、学生の論文投稿数及び国際学会発表数の増加に繋がった。																											

分野	Action Plan	実施状況	実績
研究	■社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進 ・強みである重点研究分野（カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス・文化財保存等）の研究や技術開発を全学体制で行うことにより、研究成果の社会実装を促進 ・重点研究分野における共同研究・受託研究件数、競争的資金獲得件数、論文掲載数、論文被引用数についてそれぞれ目標値を設定した上での増加達成	5	【実績及び評価指標】 ○重点研究分野（カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス等）共同研究・受託研究の件数について （2023 年度） ・本学の強みである創薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を重点的に promote し、外部資金獲得を図った。 ・研究 IR を活用し、公募型受託研究獲得の可能性が高い重点研究分野・技術の研究者に選択的に approach を行い、受託研究費の増加を図った。 ・2月にカーボンニュートラル産業創生研究センターを設置し、カーボンニュートラル分野における研究・技術開発及びその成果の社会実装を促進する体制の整備を行った。 ・運営費交付金「ミッション実現戦略」の予算を活用し、各重点研究分野に支援を行った。 （2024 年度） ・共同研究間接費増加分や各種補助金等を活用し、コーディネーター、URA を拡充し、重点研究分野・技術の外部資金獲得増を図った。 ・研究 IR 活用をさらに進め、公募型受託研究獲得増を推進した。 ○重点研究分野（同上）・技術において、研究 IR 業務に従事する URA が戦略的に関与して申請する、大型の競争的資金の申請数について ○重点研究分野（同上）・技術の論文掲載数及び被引用数について （2023 年度） ・研究 IR 組織による本学の研究力分析を開始した。 ・英語論文セミナー等を実施し、戦略的な論文投稿のための支援を行った。 ・SciVal を利用し、論文の掲載件数、被引用件数を把握することにより、大学の研究力を把握した。 ・先進軽金属材料国際研究機構において、外部機関及び企業との共同研究を実施した。 ・研究 IR 組織を整備し、担当 URA を2名雇用の上、国が公募する競争的研究費の情報を収集するとともに、本学の競争的研究費の採択状況や、Scopus・SciVal で論文の被引用数などの本学の研究力のデータ等の分析を行い、分析結果を競争的資金の申請に反映させる等している。 ・運営費交付金「ミッション実現戦略」の予算を活用し、各重点研究分野に支援を行った。 （2024 年度） ・英語論文セミナー等を実施し、戦略的な論文投稿のための支援を行った。 ・SciVal 等を利用して論文の掲載件数、被引用件数を分析することにより、大学の研究力を把握し、その結果を外部資金申請等に活用した。 ・先進軽金属材料国際研究機構において、外部機関及び企業との共同研究を実施した。

分野	Action Plan		実施状況	実績					
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間計
				重点研究分野（カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス等）共同研究・受託研究の件数	件	2年間計 205 件以上	161	187	348
				重点研究分野（同上）・技術において、研究 IR 業務に従事する URA が戦略的に関与して申請する、大型の競争的資金の申請数	件	2年間計 3 件以上	10	2	12
				重点研究分野（同上）・技術の論文掲載数	件	2024 年度 236 件以上	—	289	—
				重点研究分野（同上）・技術の論文被引用件数	件	2年間計 2,889 件以上	1,732	6,408	8,140
				【特筆すべき事項】 ・URA を中心とした研究 IR 組織において、国が公募する競争的研究費の情報を収集するとともに、本学の競争的研究費の採択状況や論文の被引用数などの本学の研究力のデータ等を分析し、戦略的な競争的研究費申請のための活動を行った。また、英語論文セミナーをはじめ論文投稿推進のための取組みを多数実施し、戦略的な論文投稿のための支援を行った。これに加え、URA の所属組織一元化や改組を行い、URA が能力を活用できる体制の整備を進めている。 ・本学を中心とした「富山循環経済モデル創成に向けた産学官民共創拠点」について、科学技術振興機構の共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野において、育成型から本格型へ昇格し、追加支援を受けられるようになった。 ・論文掲載料（APC）支援制度により、Elsevier 社やハイ・インパクトなジャーナルへの論文掲載料を支援することで、本学の研究者が執筆した学術論文のインパクトを高めることを推進した。					

分野	Action Plan		実施状況	実績																			
研究	■社会実装を目指した東西医薬学融合研究の推進	・学部、附属病院の融合による創薬に繋がる新たな疾病予防・治療戦略（次世代型医療科学）を創出 ・国内の関係大学と連携し、ASEAN 諸国を含んだ国際協力拠点を増加	4	【実績及び評価指標】 ○創薬シーズの数について (2023 年度) ・未病の科学的解明、漢方薬による認知症予防、複合剤による創薬を含む「東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学の創出」を推進するため、和漢研重点研究プロジェクト[1) 高齢者疾患対策研究、2) 未病・予防先制医療研究、3) 資源開発研究]について、6 研究課題を実施した。また、生薬エキス、漢方方剤エキスを作製し、和漢研「和漢薬ライブラリー」による公募型共同研究「探索研究」を実施した結果、創薬シーズは 15 件となった。 (2024 年度) ・2023 年度の取組みに加え、「東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学の創出」を推進するため、和漢薬による各種疾患の予防と治療、新たな薬用植物資源の開発を実施した結果、創薬シーズは 35 件となった。 ○産官学連携による共同研究の件数について (2023 年度) ・国内研究機関との連携協定を締結した。また、引き続き社会実装に向けた教育・研究拠点として実績を示すため、学内連携の推進、ならびに国内・国外拠点との共同研究の推進に取り組んだ。産学連携研究推進のための包括契約システムについて、研究所の産学連携部門を中心に URA と連携して構築した。 (2024 年度) ・2023 年度の取組みに加え、産学連携研究推進のための包括契約システムを、研究所の産学連携部門を中心に URA と連携して構築し、株式会社サンクト、株式会社 MIZKAN との 2 件が契約締結に至った。また、新規の 6 件を含む 17 件の産学共同研究を実施した。																			
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th></tr><tr><td>創薬シーズの数</td><td>件</td><td>各年度 4 件以上</td><td>15</td><td>35</td></tr><tr><td>産官学連携による共同研究の件数</td><td>件</td><td>各年度 4 件以上</td><td>19</td><td>19</td></tr></table>					評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	創薬シーズの数	件	各年度 4 件以上	15	35	産官学連携による共同研究の件数	件	各年度 4 件以上	19	19
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値															
				創薬シーズの数	件	各年度 4 件以上	15	35															
産官学連携による共同研究の件数	件	各年度 4 件以上	19	19																			
【特筆すべき事項】 記載事項無し																							

分野	Action Plan		実施状況	実績																													
研究	■世界トップレベルの研究拠点を形成	・脳神経科学、未病、カーボンニュートラル、軽金属、和漢医薬学、実験・理論物理学、数理情報工学等の世界トップレベル研究を発展させ、その成果を世界へ発信 ・国際的に活躍する若手研究者を育成	5	【実績及び評価指標】 ○重点研究分野・技術の論文掲載数、論文被引用数について ・URA を中心として研究 IR 分析を行い、重点研究分野を中心に戦略的な競争的研究費申請を行っているほか、英語論文セミナーをはじめ論文投稿推進のための取組みを多数実施し、戦略的な論文投稿のための支援を行った。また URA の所属組織一元化や改組を行い、URA が能力を活用できる体制の整備を進めている。 ・重点研究分野における論文数、被引用数とも順調に増加しており、また Top10%論文数についても全学的に順調に伸びていることから、世界トップレベルの研究成果を発信できていると言える。 ○若手教員の論文掲載数について ・英語論文セミナー等論文投稿のための支援を行ったほか、若手教員が科研費を申請する際に科研費コーディネーター等によるブラッシュアップを2回以上受けることを必須とし、若手教員の科研費採択率の増加につながった。 ・若手研究者雇用支援プロジェクトにおいて若手の外国人研究者を積極的に雇用したほか、国際協力拠点を増やす等、海外との交流機会を増やしている。 ・若手教員の論文掲載数について、第3期の平均が254件のところ、以下のとおり15%前後増加している。 ・また、若手教員による国際共著論文掲載数について、2022年は95件、2023年は108件、2024年は123件と増加しており、順調に国際的に活躍する若手が育成されていると言える。																													
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>2年間計</th></tr><tr><td>重点研究分野（同上）・技術の論文掲載数【再掲】</td><td>件</td><td>2024年度 236件以上</td><td>—</td><td>289</td><td>—</td></tr><tr><td>重点研究分野（同上）・技術の論文被引用件数【再掲】</td><td>件</td><td>2年間計 2,889件以上</td><td>1,732</td><td>6,408</td><td>8,140</td></tr><tr><td>若手教員の論文掲載数</td><td>件</td><td>2年間計 540件以上</td><td>298</td><td>284</td><td>582</td></tr></table>						評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間計	重点研究分野（同上）・技術の論文掲載数【再掲】	件	2024年度 236件以上	—	289	—	重点研究分野（同上）・技術の論文被引用件数【再掲】	件	2年間計 2,889件以上	1,732	6,408	8,140	若手教員の論文掲載数	件	2年間計 540件以上	298	284	582
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間計																								
				重点研究分野（同上）・技術の論文掲載数【再掲】	件	2024年度 236件以上	—	289	—																								
重点研究分野（同上）・技術の論文被引用件数【再掲】	件	2年間計 2,889件以上	1,732	6,408	8,140																												
若手教員の論文掲載数	件	2年間計 540件以上	298	284	582																												
【特筆すべき事項】 ・URA を中心として研究 IR 分析を行い、重点研究分野を中心に戦略的な競争的研究費申請を行っているほか、英語論文セミナーをはじめ論文投稿推進のための取組みを多数実施し、戦略的な論文投稿のための支援を行った。また URA の所属組織一元化や改組を行い、URA が能力を活用できる体制の整備を進めている。																																	

分野	Action Plan	実施状況	実績
			・本学を中心とした「富山循環経済モデル創成に向けた産学官民共創拠点」について、科学技術振興機構の共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野において、育成型から本格型へ昇格し、追加支援を受けられるようになった。 ・論文掲載料（APC）支援制度により、Elsevier 社やハイ・インパクトなジャーナルへの論文掲載料を支援することで、本学の研究者が執筆した学術論文のインパクトを高めることを推進した。
社会貢献	■産学官金連携による地域活性化を推進 ・先進アルミニウム国際研究センターを中心に様々な学問分野で地域の企業や自治体等との連携を強化し、地域経済の発展や地域課題の解決に貢献 ・産学官金連携を加速させ富山県の経済発展に寄与 ・大学発ベンチャーを促進	4	【実績及び評価指標】 ○組織的連携協定の締結件数について (2023 年度) ・2023. 7. 18 に(株)日本オープンシステムズと包括連携協力、2023. 9. 26 にハックベンチャーズ(株)と包括連携協力、2023. 10. 20 に(一社) 富山水素エネルギー促進協議会、富山県、富山県立大学と富山県における燃料水素・アンモニアサプライチェーン構築に向けた連携協力に関する協定を締結した。 ・北陸電力、北陸電力送配電との包括連携協定の締結に向けて、締結内容について協議を重ねた。 (2024 年度) ・全学的な組織的連携協定として 2024. 5. 22 に北陸電力(株)、北陸電力送配電(株)と包括連携協定、2025. 3. 26 に飛騨市と連携協力に関する包括協定を結んだ。又、部局間では、和漢医薬学総合研究所が 2024. 9. 2 に(株)サンクト、2024. 11. 26 に(株)Mizkan と連携・協定に関する基本協定、附属病院は 2025. 2. 20 に南砺市と連協協定、地域連携推進機構は 2025. 2. 21 に中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局と連携協定に関する包括協定を結んだ。 ○県内企業との共同研究・学術指導の件数 ・先進軽金属材料国際研究機構において、外部機関及び企業との共同研究を実施した。 ・URA を中心に大型の競争的資金の申請を実施する他、大型競争的資金への申請に関する相談を積極的に進めた。

分野	Action Plan		実施状況	実績					
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間計
		・アントレプレナーシップを推進		組織的連携協定の締結件数	件	2年間計 2件以上	3	6	9
				県内企業との共同研究・学術指導の件数	件	2024年度 56件以上	—	69	—
				【特筆すべき事項】 記載事項無し					
社会貢献	■地域への情報発信と定期的な対話	・地域の企業、行政との連携を深め、その成果を発信 ・県民との対話の機会をつくり相互理解を深化	4	【実績及び評価指標】 ○<u>地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数について</u> (2023年度、2024年度) ・学内の教職員に対して、学内グループウェアの掲示板を通じて、毎月「兼業手続の報告」について規則上報告の義務がある旨継続して周知を行った。 (2024年度) ・教職員の地域の自治体・経済団体等への参画件数について兼業申請のデータを元に整理した。 ・学内の教職員に対して、地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画依頼があった際は積極的に応えるよう、要請した。 ○<u>地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数について</u> (2023年度) ・地域の民俗文化財の修復及び復元の課題に対し、技藝院のDXに係るノウハウを活用して効果的な課題解決に貢献した。建築分野では、ネパールの組積構造建築物の目地強化に関する論文がSpringer Nature社の雑誌に掲載された。その他、各地域のニーズを汲み上げながら、文化財修復事業を進めた。 ・また、オランダの日本文化財修復を手掛けるNP0や、フランスのアルザス欧州日本学研究所とコンタクトを取り、ヨーロッパに存在する日本文化財の健全な修復への連携について、基本的な話し合いを進めた。					

分野	Action Plan		実施状況	実績																							
				(2024 年度) ・地域に存在する民俗文化財の修復及び復元の課題に対し、先端的な DX 技術やノウハウを活用して課題解決に臨んでいる。また、南砺市の行燈・曳山の修理に用いる資料として、3 次元計測を実施した。 ・また、CG で取り扱う点群処理のアルゴリズムに関する共同研究が情報処理学会論文誌に掲載されるとともに、デジタル技術や設備を利用した授業を開始するなど、これまで培ってきた技術や知識を用いた人材育成・還元方法について、検討を進めている。 ・その他、前年度に話し合いを実施したオランダの日本文化財修復を手掛ける NP0 と、ヨーロッパに存在する日本文化財の健全な修復を進めるための学術協定を締結した。今後はこの協定を通じた様々な連携や交流の深化を予定している。																							
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>2 年間計</th></tr><tr><td>地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数</td><td>件</td><td>2024 年度 421 件以上</td><td>—</td><td>455</td><td>—</td></tr><tr><td>地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数</td><td>件</td><td>2 年間計 15 件以上</td><td>8</td><td>8</td><td>16</td></tr></table>						評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計	地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数	件	2024 年度 421 件以上	—	455	—	地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数	件	2 年間計 15 件以上	8	8	16
	評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計																					
	地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数	件	2024 年度 421 件以上	—	455	—																					
	地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数	件	2 年間計 15 件以上	8	8	16																					
				【特筆すべき事項】 ・高岡御車山一番街の通銚留において、デジタル技術を用い金具の CAD データを作成し、それを基に精密鋳造により真鍮の部品を制作するなど、画期的な復元新調修理が行ったほか、竜頭笹の葉修理をはじめとした重要な文化財に対して、これまでに整備した 3D スキャナや DX の知見を用いることにより、現状に適応する形での修復及び復元作業を実施した。 ・能登半島地震を受けて、学部や技藝院が協働して、被災地に取り残された漆器を回収し、演習授業へ活用するほか、震災で損害を受けた建造物の現状を記録・伝承するために 3D スキャンを実施した。また、被災した輪島漆芸技術研究所の研修生 8 名を受け入れ、漆芸教員の協力指導による技術向上に係る支援を行った。																							
社会貢献	■リカレント教育等の質向上	・修士課程において、社会人が就学しやすい学修方法や履修制度を整え、入学	3	【実績及び評価指標】 <u>○データサイエンス講座及びセミナーの受講生に対するアンケート調査の結果について</u> (2023 年度) ・実施計画を見直し、データサイエンスに関する講座やセミナーに加えて、対面による特別実習の拡充・ワークショップ等の実践的な講座を実施した。																							

分野	Action Plan	実施状況	実績
	者を増加 ・ 社会人向け講座において、地域特有の課題やニーズに対応できるよう課題解決力や新たな価値を提案できる共創力を身に付けられる実践型リカレント教育を実施		・ 富山大学データサイエンス特別講座一覧を作成し、大学ウェブサイトやメール配信による学外への情報発信のほか、学内への情報共有も行い、職員の研修利用、社会人と学生との交流を図った。 <実績> 1. 学校教育推進オンラインセミナー（6回） （内訳）小中高特支オンラインセミナー（3回） 県内高校とのオンライン交流会（3回） 2. データサイエンス特別講座【対面・オンラインによる実施】（8回） 3. データサイエンスセミナー【対面・オンラインによる実施】（3回） 4. データサイエンス特別実習【対面による実施】（3回） ※内、6/17～7/8の内、計4日間に渡り行う特別実習（1回） 5. DX学修セミナー【オンラインによる実施】（7回） 6. DX実践ワークショップ【対面による実施】（6回） 7. オンデマンドコンテンツ【受講者数の制限なし】（12科目開講） （2024年度） ・ 令和5年度のアンケート結果で、今後学修したいテーマに「デザイン思考」、「論理思考」、「AI基礎」との回答があったため、それらのテーマを含めたセミナーや特別実習・ワークショップを拡充し、4.及び6.の特別実習・ワークショップでは実践的な内容としたことから満足度の平均は4.6以上の高水準となった。 ・ また、富山大学データサイエンス特別講座一覧を作成し、大学ウェブサイトやメール配信による学外への情報発信のほか、学内への情報共有も行い、職員の研修利用、社会人と学生との交流を図った。 <実績> 1. 学校教育推進 オンラインセミナー（3回） （内訳）小中高特支オンラインセミナー（3回） 2. データサイエンス特別講座【対面・オンラインによる実施】（3回） 3. データサイエンスセミナー【対面・オンラインによる実施】（4回） 4. データサイエンス特別実習【対面による実施】（4回） ※内、5/13～6/3の内、計4日間に渡り行う特別実習（1回） 10/15～11/11の内、計4日間に渡り行う特別実習（1回） 5. DX学修セミナー【オンラインによる実施、テーマ拡充】（4回） 6. DX実践ワークショップ【対面による実施、テーマ拡充】（2回） ※内、10/4～10/25の内、計4日間に渡り行うワークショップ（1回） 11/1～の11/22内、計4日間に渡り行うワークショップ（1回） 7. オンデマンドコンテンツ【受講者数の制限なし】（14科目開講、2024年度2科目追加） 8. DS・DX推進フォーラム開催（2024.11.29） ※参加者数：対面59名、オンライン62名、計121名

分野	Action Plan	実施状況	実績
			○<u>本学修士課程の社会人入学者の人数について</u> (2023 年度) ・公開講座について、公認心理師、医療関係者向けの実践的リカレント教育や、社会人向けの「知財検定 3 級合格」、「デザイン入門」等を含めた 81 講座を開講した。(内、オンラインは 6 講座) ・社会的ニーズの高いデータサイエンス教育について、富山県及び富山市と連携して、県内に勤務する社会人を主な対象として、富山大学データサイエンス特別講座等を対面及びオンラインで実施した。(実施回数：データサイエンス特別講座 1 科目全 6 回、データサイエンスセミナー 3 科目、特別実習 3 科目、DX 学修セミナー 7 科目、DX 実践ワークショップ 6 科目、オンデマンドコンテンツ 12 科目) ・グローバル社会において将来の企業リーダー・世界に通用する技術者の育成となる「次世代スーパーエンジニア養成コース」を開講した。 ・修士課程で取得できる資格・免許を調査した。修士課程の就学環境を認識するため、修士修了予定者にアンケートを実施した。さらに、経済学部同窓会（越嶺会）と連携して、社会人入学生の確保等について検討した。 (2024 年度) ・公開講座について、医療関係者向けの実践的リカレント教育や、社会人向けの「知財検定 3 級合格」、「デザイン入門」等を含めた 52 講座を開講した。(内、オンラインは 4 講座) ・社会的ニーズの高いデータサイエンス教育について、2023 年度に引き続き実施した。(実施回数：特別講座 3 科目、セミナー 3 科目、特別実習 4 科目、DX 学修セミナー 4 科目、DX 実践ワークショップ 8 科目、オンデマンドコンテンツ 14 科目) ・全ての学生（科目等履修生等を含む）を対象とした大学院教育に関する説明会を実施し、大学院で学ぶ意義等を包括的に知る機会を提供するとともに、社会人等にもアピールできるよう Web 配信も行った。同様に各研究科等で開催する大学院説明会についても、Web 活用等による社会人等への魅力発信に努めた。 ・社会人が就学しやすい環境整備・提供について、長期履修制度や大学院設置基準第 14 条に基づく特例措置、大学院授業科目のオンデマンドによる受講機会の提供等について、継続的に実施した。 ・社会人であっても学位取得を目指しやすい環境を整備し、修士課程を含めた社会人学生の増加させるため、標準修業年限 3 年である博士後期課程において、一定の研究業績や能力を有する社会人を対象に、最短 1 年で修了・課程博士号取得できる制度を新たに設けた。 ・データサイエンス寄附講座に参画する県内自治体・企業等と協定を締結し、参画団体からの派遣者にデータサイエンス関係授業に係る聴講機会の提供を行った。社会人の再訓練・再教育の活性及び入学前の学修を促進することを目的として、本取組みで受け入れる「科目等履修生」については授業料、入学料及び検定料の一部又は全部を徴収しないものとするができるよう、関係規則の改正を行った。このことにより、本取組みで受け入れた「科目等履修生」の取得単位を大学院等で単位認定できることから、社会人が大学院への進学を志向する一助となることが期待される。

分野	Action Plan		実施状況	実績					
				評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2年間計
社会貢献	■地域住民の健康を守るための医療連携と高度医療の強化	・地域の医療機関との連携を強化し、高度先進医療と質の高い医療を提供することで、地域医療に貢献 ・地域医療を守るため、医師等の医療従事者の派遣を実施	4	データサイエンス講座及びセミナーの受講生に対するアンケート調査の結果		各年度 3.5 以上	4.2	4.2	—
				本学修士課程の社会人入学者の人数	人	2 年間計 52 人以上	31	33	64
				【特筆すべき事項】 記載事項無し					
				【実績及び評価指標】 ○高度医療である一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合が定める高難度手術（D・E）や高難度新規医療技術を用いた医療の実績等について （2023 年度） ・手術準備時間を短縮し、効率よく手術室が使用できる運用を行うことで全体的な手術件数増加を図った。また、高難度手術件数の増加に向けて、令和 6 年 1 月に手術支援ロボットを 1 台増設した。 （2024 年度） ・手術支援ロボットを 1 台増設したことにより、ロボット支援下での高難度手術件数が増加した。 ・また、前年度から継続している手術室の効率的運用による全体的な手術件数増加に伴い、高難度手術件数も増加した。 ○地域の医療機関への医師派遣数について 2022 年度より、地域の医療機関からの医師派遣要請を地域医療総合支援センターに集約し、毎月開催する地域医療総合支援センター委員会で検討し、適切な医師派遣を実施している。 （2023 年度） ・地域連携セミナーを年 6 回開催し、連携登録医の増加に努めた。（+24 機関増加） ・患者向けにダブル主治医制を謳った逆紹介を啓発し逆紹介患者の増加に務めた。また、ホットラインの利便性を周知することで連携登録医の増加、ひいては紹介患者の増加に務めた。 ・新たに 1 病院と医療連携協定を締結し連携強化を図った。また各協定病院とは定期的な Web カンファレンスの実施により、スムーズな転院調整や情報共有に繋がった。					

分野	Action Plan		実施状況	実績						
				(2024 年度) ・地域医療連携セミナーを年6回開催し、連携登録医の増加に努めた。(+5 機関増加) ・前年度同様、逆紹介を啓発した逆紹介患者の増加、ホットラインの利便性周知等による連携登録医及び紹介患者の増加に務めた。 ・新たに1 病院と医療連携協定を締結し連携強化を図った。また各協定病院とは定期的な Web カンファレンスの実施により、スムーズな転院調整や情報共有に繋げた。						

分野	Action Plan		実施状況	実績														
大学運営	■学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備	・学長ガバナンスの強靱化を図るため、外部有識者登用を進め、大学の経営改善を推進 ・教職員の法人経営能力を向上するための研修体制を整備 ・執行部の考えを教職員に伝え議論する場を提供 ・全学部が参加でき、大学運営について意見交換を行うFDを実施	4	【実績及び評価指標】 ○外部有識者の学長補佐等への登用人数について (2023 年度) ・内閣府の地方大学・地域産業創生交付金の交付対象事業「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造計画のトップレベル人材として研究開発マネジメント等の強化を行うため、学長特別補佐に 3 名、また創業事業に対して専門的知見に基づき助言等をいただくため学長特命補佐に 1 名を昨年度に引き続き外部有識者から登用した。 ・アルミニウム研究に関して専門的知見に基づき助言等をいただくため、民間企業から外部有識者として 4 名の学長特命補佐を登用した。 (2024 年度) ・2023 年度同様、学長特別補佐に 3 名、また創業事業に対して専門的知見に基づき助言等をいただくため学長特命補佐に 1 名を昨年度に引き続き外部有識者から登用した。 ・アルミニウム研究に関して専門的知見に基づく助言等をいただくこと、並びに、資源循環による市民のライフスタイル変革や産業のイノベーションを通じて、地域活性化を目指す取り組みを進めることとして、民間企業から外部有識者として 5 名の学長特命補佐を登用した。 ○FD の開催数について ・大学運営について意見交換を行う FD を 3 件実施した。 (2023 年度) 1. 学長説明会 (2023. 10. 5、10. 10、10. 12) 2. 文部科学省国立大学法人支援課の講演会 (2024. 1. 31) (2024 年度) 1. 横浜国立大学長の講演会 (2024. 12. 23)														
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>2 年間計</th></tr><tr><td>外部有識者の学長補佐等への登用人数</td><td>人</td><td>2 年間計 12 人以上</td><td>8</td><td>9</td><td>17</td></tr><tr><td>FD の開催数</td><td>回</td><td>2 年間計 3 回以上</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td></tr></table>	評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計	外部有識者の学長補佐等への登用人数	人	2 年間計 12 人以上	8	9	17	FD の開催数	回
評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計													
外部有識者の学長補佐等への登用人数	人	2 年間計 12 人以上	8	9	17													
FD の開催数	回	2 年間計 3 回以上	2	1	3													
				【特筆すべき取組】 記載事項無し														

分野	Action Plan		実施状況	実績															
大学運営	■エビデンスベースの法人経営	・大学 IR 組織が、教育・研究・社会貢献等の各領域と連携して客観的なデータ分析を実施し、その結果を教育の充実、研究の推進、社会貢献の促進に活用	3	【実績及び評価指標】 ○自己点検・評価に資する分析の実施について (2023 年度) ・令和 4 年度教員業績を分析し、教員業績評価委員会で分析結果の報告を行い、教員業績における大学戦略支援に貢献した。 ・第 4 期中期計画に係る評価指標のうち、進捗に遅れがみられる指標について 2 件分析を行い、分析結果を学長へ報告し、評価指標の達成に向けての対策検討に貢献した。 (2024 年度) ・運営費交付金「ミッション実現戦略分」の中間評価及び期末評価において、評価の参考とされる「REF2021」の評価結果を分析し、関係部署に分析結果を提供し、早期に評価に向けた対策を実施できるよう支援を行った。															
				<table><tr><th>評価指標</th><th>単位</th><th>2023-2024 目標値</th><th>2023 達成値</th><th>2024 達成値</th><th>2 年間計</th></tr><tr><td>自己点検・評価に資する分析の実施</td><td>件</td><td>2 年間計 4 件以上</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td></tr></table>						評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計	自己点検・評価に資する分析の実施	件	2 年間計 4 件以上	3
評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計														
自己点検・評価に資する分析の実施	件	2 年間計 4 件以上	3	1	4														
大学運営	■財源の多元化・安定的な財務基盤の確立	・積極的な外部資金獲得と資産活用、効率的な資金運用により収入額を増加 ・学部横断的に研究に取り組み大型研究資金を獲得 ・産学連携を図り、企業との共同研究を推進	4	【実績及び評価指標】 ○外部資金収入及び自己収入額（学生納付金・附属病院を除く）について (2023 年度) ・役員会及び経営協議会において承認された資金運用計画に基づき運用し、運用益（一般財源：9、180 千円、寄付金財源：9、219 千円）を獲得した。 ・研究 IR 組織で行う業務の内容を定め、組織に求められる体制及び担当 URA に求める業務内容や雇用条件の検討を行った。 ・企業ニーズを探り、それに合わせて大学の研究成果を紹介することや、シーズ集の拡充により、企業との接点を増やし、研究資金の獲得増につなげた。 (2024 年度) ・役員会及び経営協議会において承認された資金運用計画に基づき運用し、運用益（一般財源：29、442 千円、寄付金財源：12、703 千円）を獲得した。 ・研究 IR 活用を進め、競争的研究費の申請への機運を醸成した。															

分野	Action Plan		実施状況	実績						
				○病院関連事業に資する補助金・助成金等の外部資金の獲得件数について ・2022 年度に引き続き、富山県、厚労省から公募情報が発表されると、本院が申請可能か否か確認し、必要なものについて申請を行うとともに、2023 年度からは、看護師特定行為研修の組織定着化支援事業にも申請を行った。						
	■カーボンニュートラルの実現に向けた取組を推進	・大学での消費電力削減 ・学生を巻き込んだカーボンニュートラルを実践 ・基礎研究を基に社会実装に繋げるセンターを設置	4	【実績及び評価指標】 ○カーボンニュートラルの実現に向けた取組の件数について ・大学での消費電力削減のため、9 件の取組を行った。 (2023 年度) 1. 空調設備更新 2. 照明設備（LED、照明回路）更新 3. 外皮（断熱、ガラス）更新 4. 施設・整備の運用改善（ESCO 事業、省エネ活動等） (2024 年度) 1. 空調機更新 2. 照明（LED、照明回路）更新 3. 外皮（断熱、ガラス）更新 4. 施設・整備の運用改善（ESCO 事業、省エネ活動等） 5. オフサイト PPA の実施 ・「カーボンニュートラル社会の実現」を目的として北陸電力株式会社および北陸電力送配電株式会社と産学連携の推進に係る包括連携協定を締結し、協定に基づく検討会が開催されているほか、アルミリサイクルに関する共同教育（人材育成）の取組みについて検討が進んでいる。またカーボンニュートラル社会の実現に関わる共同研究の検討が進んでおり、1 件契約が締結済みである。						

分野

Action Plan

実施状況

実績

・また、学生を巻き込んだカーボンニュートラルを実践するため、2023～2024 年度に以下の取組を行った。

1. 教養教育科目において、カーボンニュートラルを含む科目を 2023 年度は延べ 9 科目、2024 年度は 3 科目開講した。

2. 共通教育棟において、最終退室者が教室の照明を消灯するよう呼び掛けた。

3. 共通教育棟において、省エネ推進のため大教室での自習等を控え、ラーニング・コモンズ等を利用するよう呼び掛けた。

4. 共通教育棟において、「各学部の校舎等に係る学生の退館時間に関する全学方針について（通知）」に基づき学生は 19 時退館としている。

○カーボンニュートラルの取組を推進する新たなセンター設置について

・2024 年 2 月にカーボンニュートラル産業創生研究センターを設置し、カーボンニュートラル分野における研究・技術開発及びその成果の社会実装を促進する体制の整備を行った。

評価指標	単位	2023-2024 目標値	2023 達成値	2024 達成値	2 年間計
カーボンニュートラルの実現に向けた取組の件数	件	2 年間計 10 件以上	8	9	17
カーボンニュートラルの取組を推進する新たなセンター設置	件	2024 年度迄に 1 件	1	－	1

【特筆すべき事項】

記載事項無し